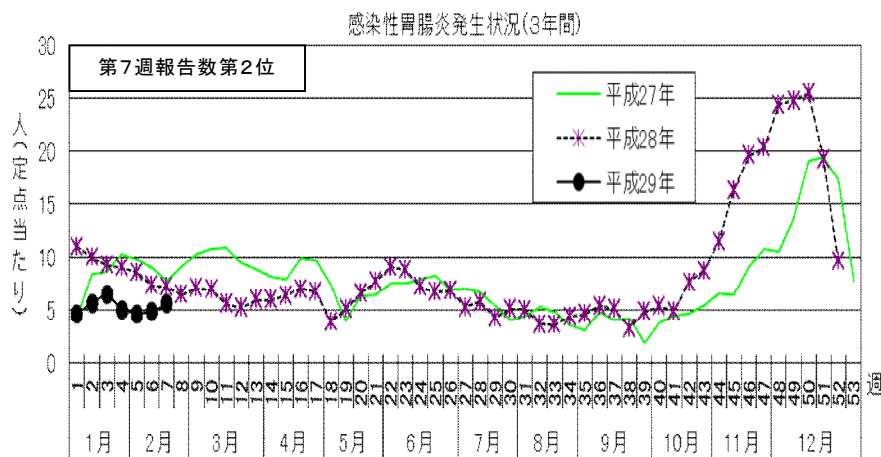
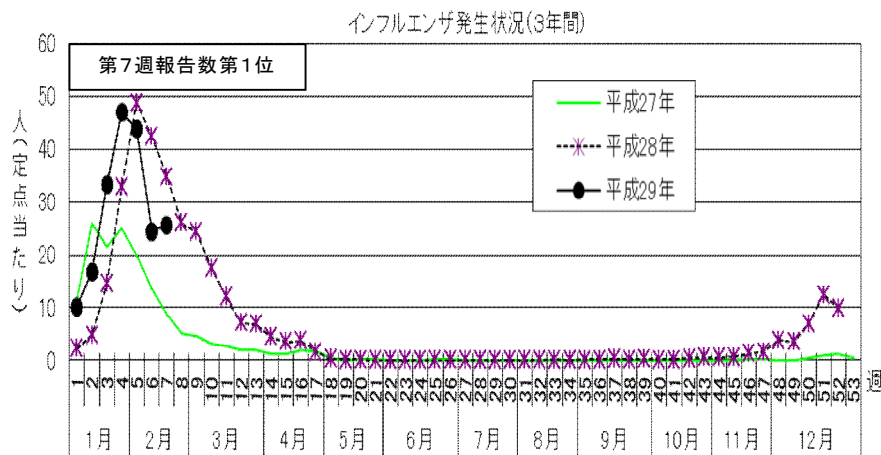


# 今、何の病気が流行しているか！

## 【感染症発生動向調査事業から】

平成29年2月13日（月）～平成29年2月19日（日）〔平成29年第7週〕の感染症発生状況

第7週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。  
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は25.52人と前週（24.37人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.58人と前週（4.83人）から増加し、例年より低いレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.39人と前週（1.75人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



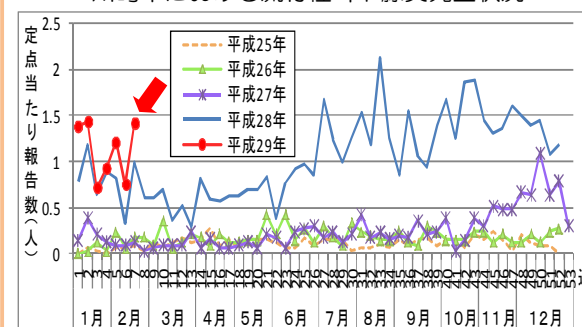
## 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)にご注意ください！

平成28年は過去3年間と比べ、流行性耳下腺炎の報告数が著しく多く、大きな流行となりました。平成29年第7週（2月6日～2月12日）現在、流行は継続しており、前年を上回るペースで報告数が増加しています。

### 流行性耳下腺炎の特徴は？

- 【病原体】ムンプスウイルス
- 【潜伏期間】2～4週間（平均18日前後）
- 【感染経路】唾液などによる飛沫・接触感染
- 【症状】
  - 両側又は片側の耳の下の腫れや痛み、発熱など
  - 通常は1～2週間で軽快
  - 感染しても症状が出ない人（不顕性感染）の割合が30%程度
- 【合併症】
  - 無菌性髄膜炎・睾丸炎・卵巣炎・難聴など
  - 特に妊婦では感染すると自然流産することもあります。
- 【予防方法】ワクチン接種

川崎市における流行性耳下腺炎発生状況



ムンプスウイルスによる無菌性髄膜炎は、予後としては良好で、自然経過で改善しますが、難聴は治癒せず、片側の場合は気付にくいこともあります。